



# 貧困の子どもにスポーツの機会を

大竹ゼミチームC

芦谷原 香太 茅野 紋奈 藤枝 快斗

光安 夏美 我妻 佳美

はじめに

# 研究のきっかけ

- 授業の中で「子ども貧困」について耳に  
→ 深刻な状況が浮き彫りに...

「子どもの貧困」は見えづらく、分かりにくい

「スポーツ」からアプローチ  
できないだろうか...?



# 私たちの想い



- 子どもの貧困率が年々上昇している

「子どもの貧困」＝「国民全体の問題」

→現時点で貧困状況にある子どもに支援が必要

- みんなに子どもの貧困を知ってもらいたい

- スポーツの側面から貧困に苦しむ子どもへ、アプローチしたい

→将来、貧困になる可能性を少しでも軽減したい

- 貧困対策に積極的に取り組む自治体を増やしたい

# 研究の概要

## Part1.緒言

- 子どもの貧困の現状
- 貧困と子どもの体力・スポーツ活動率の関係

## Part2.研究方法・調査内容

- 文献調査
- 先行事例の実態—荒川区、足立区

## Part3.結果・考察

## Part4. 3つの政策提言

## Part5.まとめ

- 自治体にむけて

# 子どもの貧困の現状

- 2012年厚生労働省「国民生活基礎調査」

子どもの貧困率 16.3% → 約6人に1人

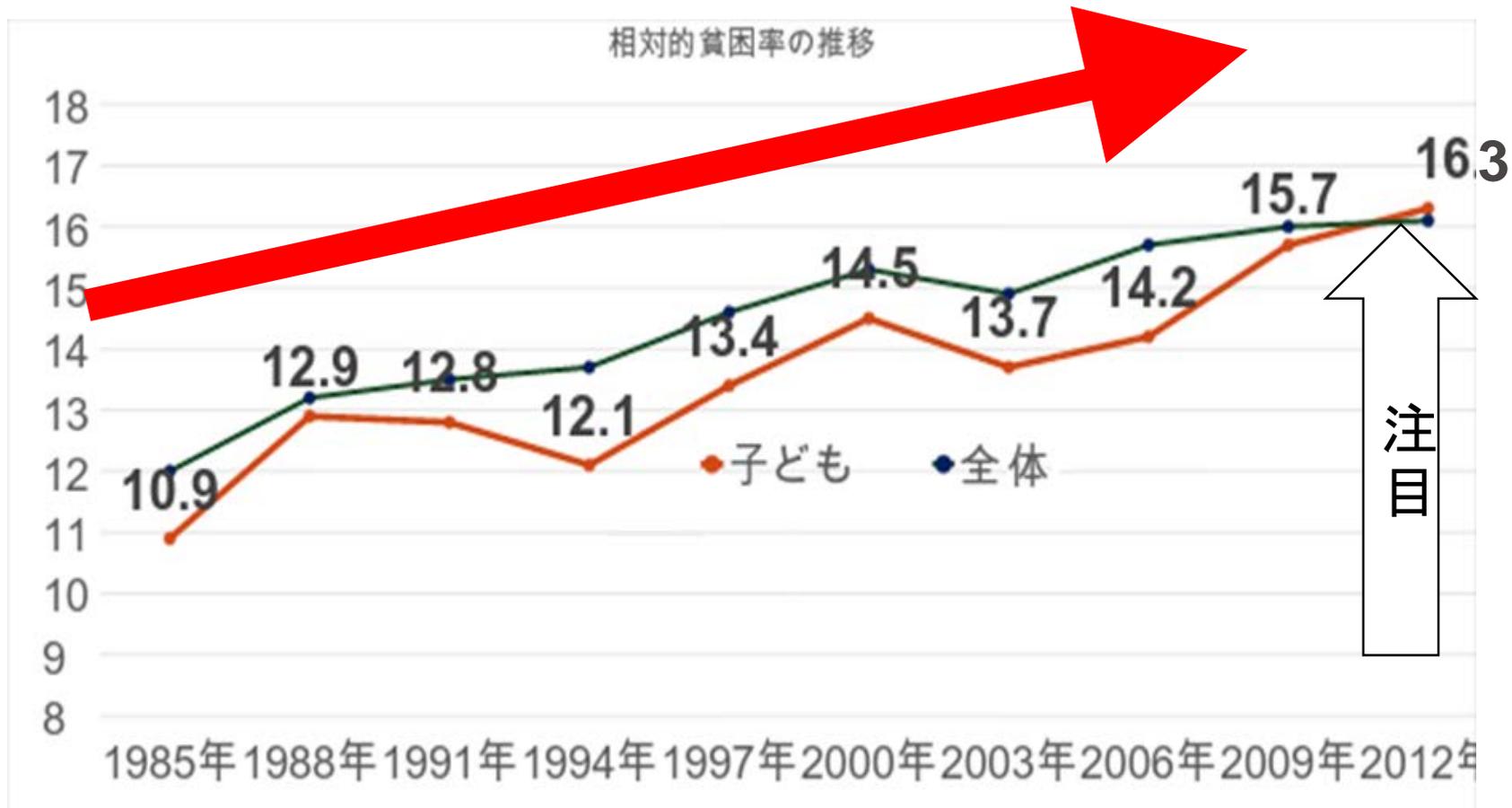
一人親世帯の貧困率54.6% → 約2人に1人

## 「相対的貧困率」

世帯収入から税金、社会保険料などを除いた手取り収入を世帯人数で調整し計算。その所得が高いほうから順番に並べたとき、真ん中に当たる所得の半額未満の割合。

例) .1人世帯：127万円以下、二人世帯：180万円以下

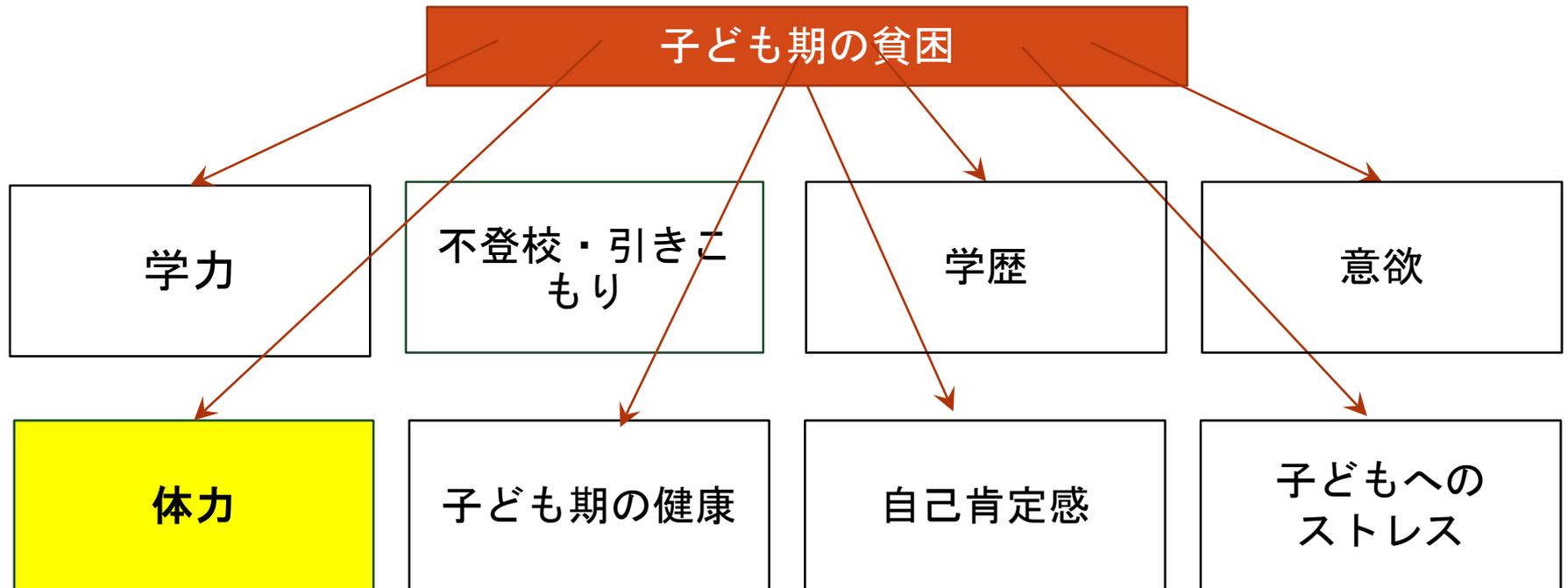
# 年々上昇傾向にある子どもの貧困



2012年には**全体の貧困率**を超えている

# 貧困が子どもに及ぼす影響

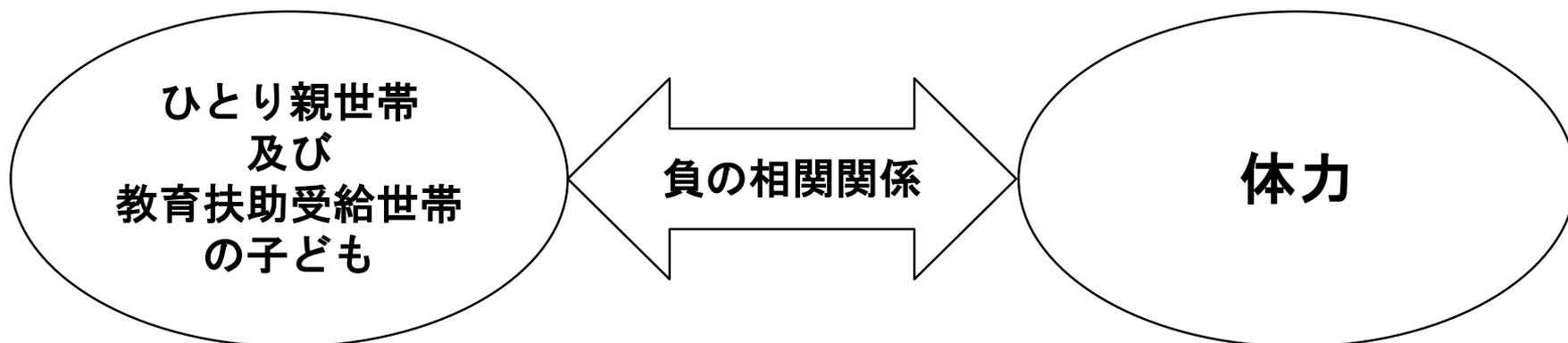
子ども期の家庭の経済（貧困）状況と、子ども期の各指標には関連がある。



# 貧困と体力の関係

## ●先行研究

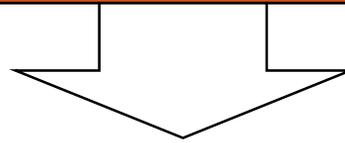
「ひとり親世帯に暮らす子どもの割合」及び  
「教育扶助を受ける世帯で育つ子どもの割合」と  
**体力**の関係に負の相関関係がある



# スポーツ基本法

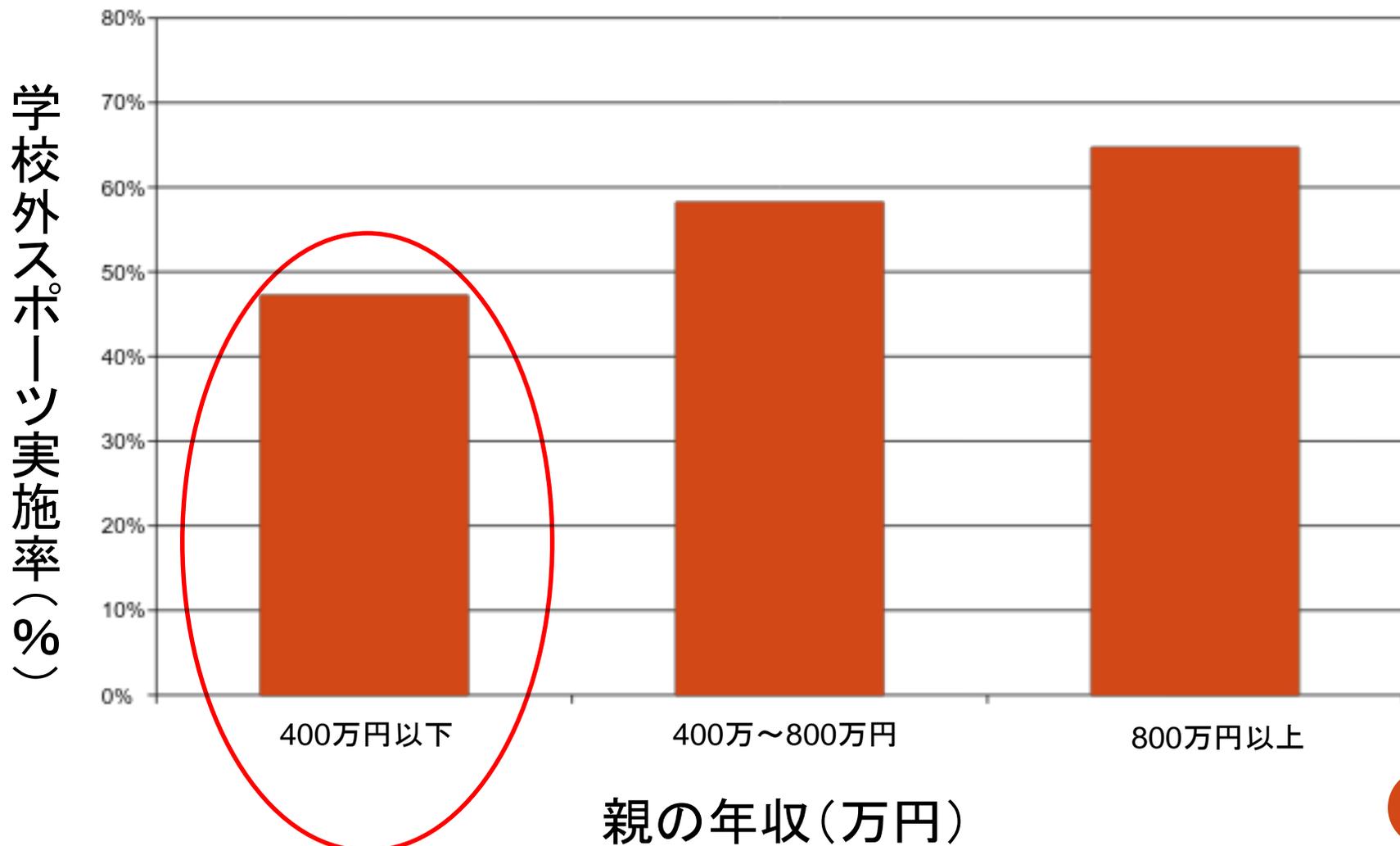
## 前文

スポーツは国民が心身ともに健康で文化的な生活を営むうえで不可欠である



日本国民が**平等**にスポーツをする機会が与えられるはずだが、**経済的要因**でスポーツをする機会が得られていない

# 親の年収とスポーツ実施率の関係



## 国・自治体の現状

2013年「子どもの貧困対策の推進に関する法律」

2014年8月「子どもの貧困対策に関する大綱」

教育の支援

生活の支援

就労の支援

経済的支援

調査・研究等

スポーツの  
支援

スポーツの重要性に  
対する認知の低さ

# スポーツの効果

体力の向上

運動技術の向上

心身のストレス  
解消

多様な価値観を  
認め合う

# 研究目的

- 子どもの貧困に積極的に取り組む自治体の事例を調査
- 貧困の子どものスポーツ実施を阻害する要因を明らかにする
- 阻害要因を取り除く政策を自治体に提言する

# 研究方法

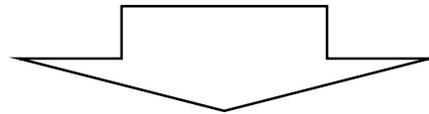
1. 貧困家庭に暮らす子どもの現状を把握するために文献整理
2. 先行事例として紹介されていた荒川区と足立区の実態調査
3. その結果から貧困な家庭で暮らす子どもの運動に対する阻害要因を明らかにする

# 文献調査



1. 貧困な家庭で暮らす子どもは自分の時間を家庭に使うことが多く、自身がやりたいことを自ら断ってしまう(下野新聞子どもの希望取材班、2015)
2. 問い:「子どもにスポーツ用品やおもちゃが絶対に必要か」

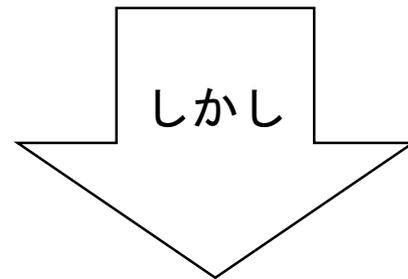
→「はい」と回答した人はわずか**12%**  
金銭的な事情で与えられなくても仕方ない**65%**



日本全体のスポーツに対する**必要感**が低い

3. 12歳以下の子どものいる世帯への調査

→「お稽古」が必要であるが、経済的な理由でできない割合が27%となっている



親から見たスポーツ需要は高まっており、  
通わせたいという切実な希望はある

# 実態調査一荒川区

学習  
支援

学びサポート  
あらかわ

機会  
均等

あらかわ  
寺子屋

貧困

食事の  
提供

支援

子どもの  
居場所づくり  
事業

孤食

子ども村：  
ホットステー  
ション

# 実態調査一足立区

## ●子どもの貧困対策

貧困に  
陥らない

させない

連鎖を  
断つ

## ●貧困の子どもの**学ぶ**・**学びたい**意欲を応援する

# 実態調査一足立区

## 1. 足立はばたき塾

- 成績上位で学習意欲は高いが、経済的な理由で学習機会の少ない生徒を中心に、民間の指導力の高い講師による学習の機会を提供している

## 2. 子ども家庭部

- 「子ども支援センターげんき」と子ども支援担当課が、子どもの居場所づくりのために政策を共同で行っている
- ショートステイ事業やほっとほ一む事業がある

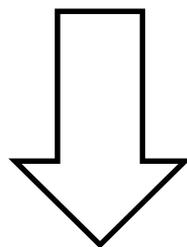
## 研究結果・考察

- 日本は子どもへのスポーツの必要性が低いという意識の問題がある
- しかし、子どもの習い事に対する親の需要が高いことから、スポーツを含む支援は必要である
- 本研究は、貧困家庭の子どもでも気軽にスポーツを行える支援を取り入れ、「スポーツ」を軸にした3つの政策を提言する

4.政策提言(1)

食事・学習・運動の3方向からの支援

社会福祉協議会が持つ福祉サービスを利用

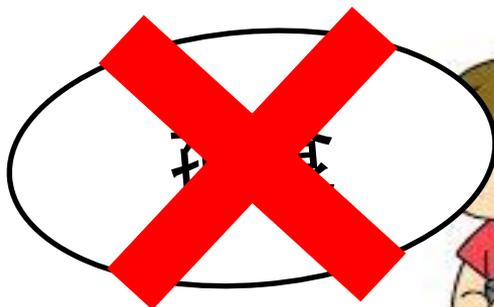
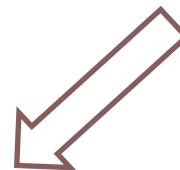
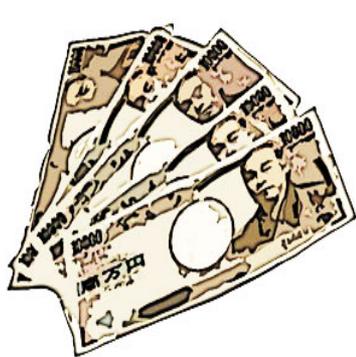


食事

学習

運動

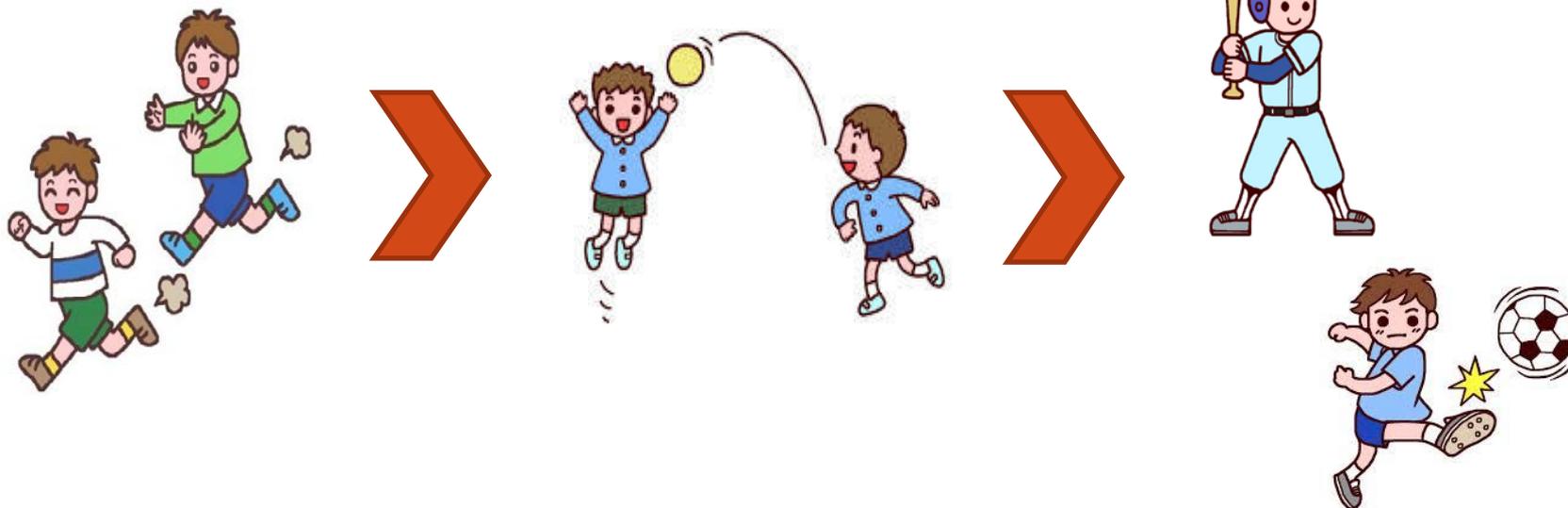
# 1. 食事の支援



## 2. 学習の支援

- ・週に3回、学校の授業の復習など

## 3. 運動の支援

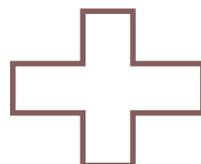


## Part4.政策提言(1)

日程表					
	月	火	水	木	金
16:00	調理開始	調理開始	調理開始	調理開始	調理開始
17:00	運動			運動	
18:00		学習	学習		学習
	自由時間			自由時間	
19:00	食事	食事	食事	食事	食事
20:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
	解散	解散	解散	解散	解散
21:00					

**放**課後児童クラブとフィットネスクラブの提携

子どもが好きなように遊んでいる



運動指導の専門機関である  
**フィットネスクラブ**



**基礎体力向上の場**に変わる

Part4.政策提言（2）



走る

跳ぶ

投げる

～事業経費～

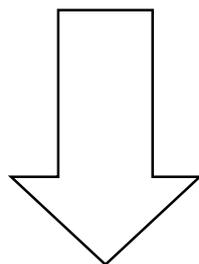
3分の1ずつ  
負担

（教育委員

無料

# ビッグブラザー・ビッグシスター

一対一の関係を築いていくプログラム



普通のお兄さん・お姉さんのような存在

不登校の  
減少

暴力行動  
の減少

自己肯定  
感の強化

将来の  
希望

人間関係  
の改善

勉強への  
自信の表れ

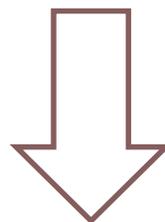
プラスの  
効果

# 大学との連携



ボランティア  
実習として  
単位認定

教育実習の  
受け入れ



Win-Winの関係の構築

## 自治体へむけて

誰もが参加できる環境を . . .

各自治体の規模や予算を考慮



地域の事情に即した

スポーツの支援が期待できる

# 8.参考文献

1. 厚生労働省(2012) 国民生活基礎調査
2. 北海道大学大学院教育学研究院紀要(2015) 日本の子どもにおける貧困と体力・運動能力の関係
3. スポーツ基本法(2011) 内閣府
4. ベネッセ教育総合研究所(2009) 第1回学校外教育活動に関する調査  
<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=3264>
5. 日本大学経済学部経済学科研究所研究会(2010) 子どもの貧困-すべての子どもの幸せのために-
6. 足立区こども支援センターげんき(2014) 事業概要
7. 公益財団法人荒川区自治総合研究所(2011) 子どもの貧困・社会排除問題研究プロジェクト最終報告書「地域は子どもの貧困・社会排除にどう向かい合うのか-あらかわシステム」
8. 公益財団法人荒川区自治総合研究所(2012) 荒川区民幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト第二次中間報告書
9. 下野新聞子どもの希望取材班(2015) 貧困の中の子ども-希望って何ですか-



社会全体に貧困の事実を知ってほしい

将来、貧困になる可能性の減少を目指して...



ご清聴ありがとうございました  
大竹ゼミチームC